

第7回 高大連携教育研究会

(湘北短期大学)

「高校における アクティブラーニングの進展」 ～リーダーシップ教育の導入～

2016年9月5日 神奈川県立藤沢清流高等学校
総括教諭 小島 昭彦



自己紹介(小島昭彦について)

神奈川県立藤沢清流高等学校の総括教諭。キャリア支援グループのグループリーダー。教科は外国語(英語)。

1963年1月、神奈川県藤沢市生まれ。1987年4月より神奈川県立高等学校の教壇に立つ。これまで、厚木西高等学校(1987年-1996年)、磯子高等学校(1996年-2001年)、藤沢西高等学校(2001年-2011年)、藤沢清流高等学校(2011年-)に勤務。

校内でのキャリア支援体制の充実、アクティブラーニング型授業による組織的な授業改善や、リーダーシップ教育の導入・推進を中心に取り組む。これまで、第8回初年次教育学会(2015年度)はじめ、文教大学や湘北短期大学、県立高校等において、アクティブラーニング型授業の実践、校内での組織的な授業改善について講演・事例発表を行っている。『進路アドバイザーのための基礎知識 2016』(大学新聞社)、『キャリアガイダンス』No.50、Vol.405、Vol.413、『2016年度 高校生の保護者のためのキャリアガイダンス』(以上、リクルート)等で取材協力、監修等を行う。日本リーダーシップ学会会員。趣味はクラシック音楽鑑賞、読書。

【連絡先】 251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1450番地 神奈川県立藤沢清流高等学校
電話:0466-82-8112 小島 昭彦 akihiko-kojima@pen-kanagawa.ed.jp



藤沢清流高校について

<http://www.fujisawaseiryu-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

- 神奈川県立の高等学校 現在235校(内訳:県立142校、市立15校、私立78校)。
※中等教育学校は5校(内訳:県立2校、私立3校)。特別支援学校は50校(内訳:国立2校、県立27校、市立19校、私立2校)。
- 藤沢清流高等学校 全日制普通科(単位制)
 - ・平成22(2010)年4月 大清水高校と藤沢高校が再編統合し、全日制普通科の単位制高等学校として、大清水高校敷地に開校(県立の全日制普通科の単位制高等学校は8校)。本年3月に6期生が卒業。
 - ・開校以来、90分授業を実施。「まじめがかっこいい」→生徒の成長=学校の力。
 - ・生徒数は約760名。HRは現1年次生は各35名、現2・3年次生は各30名。
 - ・1・2年次の英・数で習熟度別小集団授業を展開。

251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1450番地 (電話:0466-82-8112)



お伝えしたい主な内容

藤沢清流高校におけるアクティブ・ラーニング(AL)の セカンド・ステージ

- 1 藤沢清流高校でのこれまでの取組
- 2 藤沢清流高校におけるキャリア教育
- リーダーシップ教育について
- 3 授業力向上推進重点校として



0. アクティブラーニングとは

「一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化(※)を伴う。」(『アクティブラーニングと教授学習法パラダイムの転換』 京都大学 高等教育研究開発推進センター教授 溝上 慎一 著)

※外化：文章や会話、発表などを通じて、自分の頭の中にある思考を外に出すこと。(溝上 氏)

©2015 Akihiko KOJIMA 禁無断転載・複製



1 藤沢清流高校でのこれまでの取組

(1)AL型授業推進の背景

○(2011-2012)小島は、授業のマンネリ化で行き詰まりを感じていた。

○90分授業の中で、**創意工夫の必要性**。

→AL型授業を試行錯誤。はじめは「なんちゃってAL」。悪戦苦闘しつつも、徐々に改善・工夫。

→**授業改善は個人ではなく、組織的に取り組むことで生徒全体の学力が向上し、学校力も高めることができるはず!**



1 藤沢清流高校でのこれまでの取組

◎2013(平成25)～2015(平成27)年度の3年間

「県立高校教育力向上推進事業ver.Ⅱ」

★「**確かな学力向上推進**」(アクティブラーニングに基づく)の研究推進校に。



1 藤沢清流高校でのこれまでの取組

3年間の計画

1年目(2013年度)

- ・アクティブラーニングについての調査・研究 → **ほぼ達成**
- ・全職員に対する研修 → 考え方や実践に対する理解と取組の浸透 → **ほぼ達成**

2年目(2014年度)

- ・前年度の成果を活かした授業実践 → **ほぼ達成**
- ・実践事例(ノウハウ)の共有と整理 → **ほぼ達成**

3年目(2015年度)

- ・AL型授業実践の振り返り → **ほぼ達成**
- ・これまでの研究成果の検証、研究のまとめ (とはいえ、まだまだ続く…はず) → **継続**

各年度

- ・高大連携を積極的に活用し、大学でのアクティブラーニング関連フォーラム、セミナー等に積極的に参加



1 藤沢清流高校でのこれまでの取組

AL型授業の方法は統一しない

2014/15年秋 AL型授業の実践について、単元の指導計画・授業の進め方についての検討を、教科ごとに実施

- ・教科会の前に全員が資料を作成し、教科会で集約・共有・討議
- ・AL型授業の方法は統一せず、各教員が持ち味を活かして様々な工夫を凝らし実践

→ アイディアを共有、新たな気付き、さらに新たな方法により改善を試みる、というサイクルが構築



1 藤沢清流高校でのこれまでの取組

©2013(平成25)～2015(平成27)年度の3年間

「県立高校教育力向上推進事業ver. II」

★「確かな学力向上推進」(アクティブラーニングに基づく)の研究推進校に。



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

本校でのキャリア教育

◎学校での教育活動すべてがキャリア教育

- 進路について考え、行動させる指導もする
- 進路ガイダンスも実施する **が**



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

本校でのキャリア教育

◎学校での教育活動すべてがキャリア教育

□教科での学習活動が中心であるべき

←AL型授業により、生徒のジェネリックスキル(汎用的能力)を醸成

AL型授業推進は、本校の組織的な授業改善の一環であると同時に、キャリア教育の大きな柱となっている。



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

本校でのキャリア教育

□大学合格実績を伸ばすことよりも、むしろ将来社会で活躍できる人材となることができるようになることが目的。

→**教科学力とともに、ジェネリックスキル(汎用的能力)を高める**



学びみらいPASS 学びみらいPASS(河合塾)の導入

<http://www.kawai-juku.ac.jp/manabi-mirai/>

□**PROG-H** (プログ:Progress Report On Generic skills)

「知識を活用して問題を解決する力(リテラシー)」と「人と自分に最適な関係をもたらそうとする力(コンピテンシー)」を測定

□**Kei-SAT** (ケイサット:Kei-Scholastic Assessment Test)

学習進度の異なる高1~2年までの教科学力を項目反応理論(IRT)に基づき、同一尺度で評価

□**LEADS** (リーズ:Learning Attitude & Daily Survey)

学習・生活実態におけるタイプ分類調査

□**R-CAP for teens** (アールキャップ:RECRUIT Career Assessment Program)

興味志向の特徴をベースに、「キミのタイプ」「職業適性」「学問適性」などの領域で診断

→本年度入学生(9期生)より、1年次春(4月)と2年次秋に実施し、生徒の変容を調査。



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

本校でのキャリア教育(新たな取組)

□**リーダーシップ教育の導入**



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【リーダーシップとは？】

- リーダー≠リーダーシップ
- 役職に就いている者、特定の権限を持っている者だけが発揮するものではない
- そこに関わっている全員が発揮しうるもの

【引用】早稲田大学総合研究センター教授、立教大学経営学部BLP主査、立教GLP主査 日向野 幹也 氏



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【なぜリーダーシップが必要か？】

- (新入社員でも) 社会に出てすぐに要求される
 - ・ しかし、高校では教わらない
- すぐに役に立つ
 - ・ アクティブラーニングにも役立つ
 - ・ 友人関係、部活動、家族関係ですぐ使うことができ、人生が好転する

【引用】早稲田大学総合研究センター教授、立教大学経営学部BLP主査、立教GLP主査 日向野 幹也 氏



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【リーダーシップとは…たとえば？①】

- ① 授業でグループワークを行っているときに、隣の友人が困った表情をしていたので
- 「どう？それ、結構難しいよね？」と声をかけた。

⇒「リーダーシップ」といえる

【引用】早稲田大学総合研究センター教授、立教大学経営学部BLP主査、立教GLP主査 日向野 幹也 氏



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【リーダーシップとは…たとえば？②】

- ② 授業でのグループワーク中、課題が難しくどこから手を着けたらよいかわからないので、
- 「そもそも〇〇ってどういうことですかねえ」と口火を切ると、他の者も自分の考えを言い、話合いが始まった。

⇒「リーダーシップ」といえる



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【リーダーシップの三要素】

- 目標の設定と共有 (Setting the Goal)
- 率先垂範 (Setting the Example)
- 同僚支援 (環境整備) (Enabling Others)

【参考】早稲田大学総合研究センター教授、立教大学経営学部BLP主査、立教GLP主査 日向野 幹也 氏 講演



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【具体的には…】

- ① 「部活動」に「リーダーシップ教育」をとりこむ
 - ・ 部活動生徒対象に研修を実施

→ 振り返り等の活動により、一人ひとりにリーダーシップの意識が育ってくると、部活動の環境、人間関係等をよりよくしようという動きが出てくる。

【参考】イノベスト代表取締役 松岡 洋佑 氏



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【具体的には…】

- ① 「部活動」に「リーダーシップ教育」をとりこむ (続き)
 - ・ 部活動生徒対象に研修を実施

→ 「キャプテンがものを言わないと勝てなかったチーム」が、チーム構成員の「率先垂範」により成果目標が共有化され、チームメイトの「同僚支援」が活発になる。その結果、競技成果にもあらわれるようになる。

【参考】イノベスト 松岡 洋佑 氏



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【具体的には…】

- ② スポーツ大会 (球技大会) 前日 (9月27日)、全生徒対象に「リーダーシップ研修」を実施。
 - 1) どのようにリーダーシップを発揮するか
 - 2) クラスのチームをどうやって応援するか (=同僚支援ワードを決める)
 - 3) 終了後には、リーダーシップについて振り返り

【協力】イノベスト



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

【具体的には・・・】

③「アクティブラーニング型授業」と「リーダーシップ教育」を連動させる

- ・生徒から「リーダーシップの三要素」が代わる代わる発揮される。
- ・AL型授業での生徒の学習活動がより活性化する。
- ・ALを発生させたいと思っている教員は、教室内で生徒がリーダーシップを発揮できるよう、「補助輪」を付けたり外したりする。（社会へ出ると「補助輪」が外れ、より深い学びへ。）

【参考】早稲田大学総合研究センター教授、立教大学経営学部BLP主査、立教GLP主査 日向野 幹也 氏 講演



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

□「世界標準のリーダーシップ」教育を導入

→つまり、**役職・権限・カリスマ**とは結びつかない「**リーダーシップ**」の発揮



2 藤沢清流高校におけるキャリア教育

□株式会社イノベストと2016年度より3年間の連携

- ・2016年4月 生徒対象 部活動研修
- ・2016年5月 教員研修
- ・2016年8月 教員研修
(アクションラーニングのセッション体験)
- ・2016年9月 生徒対象研修
(スポーツ大会<=球技大会>に向けて)
- ・2016年11月頃 (予定) 教員研修 など



3 授業力向上推進重点校として

◎2016(平成28)～2018(平成30)年度の3年間

「**県立高校改革 実施計画(I期)**」

★「**授業力向上推進重点校**」に指定される。

- ・ **港北**(横浜北東・川崎地域)、**松陽**(横浜南西地域)、**七里ガ浜**・**藤沢清流**(横須賀三浦・湘南地域)、**伊勢原**(中・県西地域)、**麻溝台**(県央・相模原地域)の6校。



3 授業力向上推進重点校として

【研究主題】(素案)

アクティブラーニングの視点に基づく授業実践による生徒の確かな学力向上

【3年間の目標(3年後のめざすべき姿)】(素案)

- * ①生徒が、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性も含んだ、いわゆる「新たな学力」をバランスよく身に付けて本校を卒業していくこと。
- * ②生徒が、本校で培われたアクティブラーニングとリーダーシップ経験を土台に、社会へ出てからも豊かに生きていくことができるという自信をもって本校を卒業していくこと。



3 授業力向上推進重点校として

【研究内容】(素案)

- * ①**アクティブラーニング型授業による組織的な授業改善の継続、深化**
- * 本年4月、人事異動により本校の約3分の1の教職員が入れ替わった。そのため、これまで積み上げてきたアクティブラーニング型授業による組織的な授業改善の取組を再度全教職員に浸透させつつ、校内研修の実施、校外での研修への積極的参加を促し、これまでの実践をさらに進化・深化させていく。



3 授業力向上推進重点校として

【研究内容】(素案)

- * ②**「チームかながわ」の核としての取組**
- * 本校での研究内容を地域の高等学校等に共有していただいたり、他の指定校との連携により、「チームかながわ」として県全体の高校力がアップするよう、公開研究授業や研究協議会、ワークショップの積極的な開催に努める



3 授業力向上推進重点校として

【研究内容】(素案)

- * ③**リーダーシップ教育の導入**
- * 本年度より、立教大学や早稲田大学等で推進しているリーダーシップ教育を、大学教員、関係機関の指導支援をいただき、部活動でのリーダーシップ発揮についての研修を進めるが、指定2年目の平成29年度以降、アクティブラーニング型授業とリーダーシップ教育をリンクさせた取組を検討し、リーダーシップ発揮が授業づくりや生徒の学力向上にも効果があることを検証する。



3 授業力向上推進重点校として

【研究内容】(素案)

- * ④「**新たな学力**」測定による生徒の学力の推移
- * 「新たな学力」測定テスト（※）を今後1年次春及び2年次秋に実施し、生徒の教科での知識・技能面のみならず、いわゆるジェネリック・スキルが高校生活の中でどのように伸長するか、その推移について分析する。 ※学びみらいPASS（河合塾）



ご清聴ありがとうございました

「アクティブラーニング (AL) 型授業の実践による学力向上推進」

【Ⅰ アクティブラーニングの定義】

「一方的な知識伝達型の講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」
(京都大学教授 溝上 慎一氏による)

※アクティブラーニング型授業：アクティブラーニングを採り入れた授業(溝上氏)。

【Ⅱ ALとAL型授業】

【Ⅲ 個人としての取組】

- まずはやってみる → 試行錯誤の連続 → 少しずつ改良
 最初は欲張らず、1つか2つでよいからアクティブラーニング(AL)を促す活動を取り入れてみる
→ その活動を改善、あるいは発展させる
- PowerPointを活用 → 板書を減らす、スライド集は生徒へ配付
 なぜAL型授業を行うのか、その目的を生徒にきちんと説明し理解させる
→ 「21世紀はグローバル化社会であり、様々な価値観をもつ人々、様々な立場の人々が、チームの中で、相手の声に耳を傾けながら自分の意見もきちんと伝え、チームとしての『納得解』を求めることが必要になる。AL型授業はそのためのトレーニングの一つである」
 授業では、その時間の学習到達目標(「…することができる」)、態度目標を確認
→ 「わからない」「難しそう」が出発点
→ ・「間違えること」「他者と考え・意見が異なることはとても良いこと」
(他者の意見を受け容れ、尊重し合う姿勢が大切)
・「わからないところは互いに尋ね合い、教え合う」
(新たなことに気づきが生まれ、さらなる学びへ = 「クラス全体が一つのチーム」)
→ 全員にリーダーシップ発揮を求める
・リーダー≠リーダーシップ → いわゆる「権限のないリーダーシップ」
・チームのメンバー全員が発揮するもの
・リーダーシップ3要素：「目標の共有」・「率先垂範」・「同僚支援」
・その時間にどのようにリーダーシップを発揮したいか書かせ、グループ内で共有するのをも一方法
→ 「教室内は安全・安心の場」であることを繰り返し伝える
- 講義(説明)を極力減らす → 「いかに隅々まで丁寧に説明できるか」から「いかに説明を削るか」へ
※しかし、講義は必要!
※LITE(Learning IN TEaching)：
Inputした知識を頭の中で整理
→ Outputし知識を確実に定着させ、得た知識を活用し課題解決を図る
 生徒の学び合い(教え合い)の時間を確保
 単にグループワークで作業をさせているだけでは、ALの効果は出ない(←「なんちゃってAL」)
 授業デザイン(教材の精選、課題、時間配分等)が大きなカギ
→ ペア(グループ)ワークでの課題設定に工夫を
- グループ分けにおける配慮：好きな者同士よりはアトランダムで(例：くじ引き)
→ ・公共圏コミュニケーション能力 > 親密圏コミュニケーション能力
・グループが新しくなったら、適度なアイスブレイクを行うと効果的
- ペア(グループ)ワーク時にプリントを配付する際、個々に配付せず各ペア(グループ)には1枚だけ
→ 生徒が1枚のプリントをのぞき込んで、ああでもないこうでもないと話合いが始まる
 ペア(グループ)ワークでは、設定した時間は厳守
 グループワークの時間は、教員はファシリテーターに徹する
→ ・そこから出た生徒の質問には安易に答えない、質問には質問で返す
・(話合いがうまくできていない場合)「チームで協力して話ができますか?」「(介入)」
・(時間を区切って)「あと10分ですが、順調ですか?」「(介入)」
【小林 昭文氏『キャリアガイダンス』Vol.405より】
- グループワークでは毎回生徒の係を変え、特定の者に作業・役割が偏らないようにする
→ 例：①リーダー ②タイムキーパー ③記録係 ④偵察係
 グループ討論、発表ではホワイトボード(またはホワイトボードシート<どこでもシート>)を活用
- 多様な活動：“Wordle”によるテーマ予想、会話フレームを使っのペア練習、会話して得たパートナーの情報をクラスで発表、起立音読、ペア・グループで音読、グループで本文要約、英文整序、あるテーマについての意見を討論・発表、ディクテーション、後ろに全員を並ばせて順に語彙・表現の口頭確認テストなど
 訳例は授業後に配付。プリント(問題)の正解を配付

- 7 定期試験は共通問題だが、授業の進度は他クラスよりも遅くならないようにしている
→ 限られた時間でできることは何なのかを重視
- 8 振り返りシートを活用
→ ・シートの記入をもって学習の完結にならないように（発展的な学びへ繋げたい）
・10回分でA4サイズ1枚のシート＝生徒の意識の変化が見てわかる
・生徒にはほぼ毎回、7～8分程度で書かせる
① リーダーシップを発揮することができたか、どんな場面で発揮できたか
② 今日のグループ（クラス）内で、最もリーダーシップを発揮していた人は誰か、どんな点で発揮できていたか
③ 今日の学習内容で一番重要な点は何だったと思うか
④ 今日の授業での反省を踏まえ、次回に向けてどのように改善したいか
⑤ その他、感想、質問等
→ シートは次の授業で一度返却（細かく見ない → 見ていたら大変）

【IV 組織的な取組】

- 1 同僚で徐々に仲間を増やす、相互見学、情報交換、気づき、学び合い、そして新たな工夫
→ 個人での取組 ▶ 有志での取組/教科での取組 ▶ 組織的な取組へ
→ トップダウンでの「やらされ感」を伴った取組ではなく、あくまでも生徒のために、教員同士も面白さ・やり甲斐を感じながら実践していける取組にしていきたい
- 2 AL型授業に決まったやり方はない＝教員が各自の持ち味を活かして取り組む
→ 仲間と情報交換・共有し、新たな気づきを得て、さらなる工夫・改善へ
- 3 はじめは有志だけでもよいので、校内研修会を開催してみる（→ドリンク・お菓子つきがイイ！）
 授業の相互見学、有志による研究会、情報交換、気づき、学び合い、新たな工夫
→ ・研究会では授業者のつるし上げにならないように
（「いいね!」「教えて!」（質問）の2種類のみ色の違う付箋に書き、授業者のコメントを求める）
・他教科の授業から意外なヒントが得られることも!
 職員室内にAL型授業に関する書籍を用意
 校外での研修へも積極的に参加し他校との教員と繋がる → ネットワーク拡大
→ AL型授業を進化・深化（徐々に「ディープ・アクティブラーニング」へ）
- 4 校内における教員の変容
→ AL型授業の実施に積極的でない教員を生徒が動かした例も
- 5 学校でのすべての教育活動が本校のキャリア教育だが、基本は日頃の教科学習
→ AL型授業はキャリア形成に大いに有効
- 6 生徒にジェネリックスキル（リテラシー＋コンピテンシー）をしっかりと身につけさせ、将来社会で活躍できる人材に育てる（大学合格、あるいは大学合格実績を伸ばすことが目的ではない）
→ 「新しい学力」を測定するためのテスト（河合塾「学びみらいPASSo」）を活用
- 7 2016年度より「リーダーシップ教育」を導入（→部活動支援。2017年度以降、AL型授業でも効果が出るか?）。（※『キャリアガイダンス』Vol.413 参照）

【参考】

- ◆ 『キャリアガイダンス』Vol.413（2016年7月）（リクルート）
http://souken.shingakunet.com/career_g/2016/07/vol41320167-6c8d.html
■ 特集「リーダーシップ教育」で生徒が変わる
【事例紹介】動き始めた大学・高校の現場
藤沢清流高校（神奈川・県立）
- ◆ 『キャリアガイダンス』Vol.405（2014年12月）（リクルート）
http://souken.shingakunet.com/career_g/2014/12/vol405201412-3a96.html
■ 特集アクティブラーニングで変わる授業と生徒の未来
1章AL（アクティブラーニング）最前線見えてきた課題とその解決策
追跡！AL導入から1年、生徒はどう変わったのか？ 藤沢清流高校（神奈川・県立）
- ◆ 『キャリアガイダンス』No.47（2013年7月）（リクルート）
http://souken.shingakunet.com/career_g/2013/07/no47201307-c68e.html
学習意欲を高め学力につなげる授業改革
1章アクティブラーニング型授業をいかに始めるか
01 組織的に取り組む高校が全国に続々誕生 神奈川・県立藤沢清流高校

○連絡先（お問合せ、ご意見、ご要望等）:

神奈川県立藤沢清流高等学校 キャリア支援グループ 外国語（英語） 総括教諭 小島 昭彦
(t) 0466-82-8112 (f) 0466-83-3536 email: akihiko-kojima@pen-kanagawa.ed.jp

【英語】授業振り返りシート

April 2016 (1)

- ① リーダーシップを発揮することができましたか。どんな場面で発揮できたか書きましょう。
- ② 今日、グループ(クラス)内で、最もリーダーシップを発揮していた人は誰ですか。どんな点で発揮できていたか書いてください。
- ③ 今日の学習内容で一番重要な点は何だったと思いますか。
- ④ 今日の授業での反省を踏まえ、次回に向けてどのように改善したいと思いますか。
- ⑤ その他、感想、質問等何かあれば書きましょう。

No. _____ Name _____

1	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
2	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
3	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
4	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
5	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	

【英語】授業振り返りシート

April 2016 (1)

- ① リーダーシップを発揮することができましたか。どんな場面で発揮できたか書きましょう。
- ② 今日、グループ(クラス)内で、最もリーダーシップを発揮していた人は誰ですか。どんな点で発揮できていたか書いてください。
- ③ 今日の学習内容で一番重要な点は何だったと思いますか。
- ④ 今日の授業での反省を踏まえ、次回に向けてどのように改善したいと思いますか。
- ⑤ その他、感想、質問等何かあれば書きましょう。

No. _____ Name _____

6	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
7	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
8	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
9	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	
10	月	①	
		②	
		③	
	日	④	
		⑤	

目標

自らの生き方・将来を考え、目標に向けて意欲を高め、
自らの課題に向けて前向きに取り組む生徒を育成する。

1年次

自己発見、自己形成の手段を身につける
・学校適応の確保と基礎学力の定着
・他者理解を通じた自己理解による目標の設定、前向きに取り組む姿勢の育成

2年次

課題の発見、調査研究を通して自己の向上を図る
・課題設定とその調査過程に必要な学力の育成
・上級学校訪問等、社会を広く見通した自己の価値

3年次以降

課題研究を通して計画実行、決定能力を育成する
・主体的で適切な進路選択とその実現のための応用的学力の育成

さまざまな教育活動を通して職業観・勤労観を育成する

入学		卒業																																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
H R / 綜 合 的 な 学 習 の 時 間	<p>〈キャリアカウンセリング 1年次〉 生徒・保護者との面談、科目選択、履修指導。</p> <p>〈キャリアガイダンス〉 進路別、分野別講演会。</p> <p>〈「新しい学力」測定テストI 1年次春〉 ①実力診断テスト(英・数・国) 学習方法及び自己の学力、適性の点検、基礎学力の定着を図る。 ②高校生活意識調査(LEADS) ③キャリア支援ツール(R-GAP) パーソナリティ、学問適性、職業適性などを分析し、自己理解を深め、将来を見据えた科目選択に繋げる。 ④ジェネリックスキル測定テスト(PROG-II) 知識を活用して問題を解決する力(リソルブ)と実践的な行動特性(ロビテン)を測定し、自己の能力の伸長に役立てる。</p> <p>〈職業インタビュー〉 様々な職業の社会人から話を聞き、将来の夢を持つ。</p> <p>〈シチズンシップ教育〉 積極的に社会参加するための能力と態度を育成する。 ①政治参加教育 主催者教育の推進、国会議員選挙を考慮した模擬投票。 ②司法参加教育 法曹関係者による裁判員制度についての講義。 ③消費者教育 生活設計(ライフプラン)、マネープランをテーマとした体験的学習。</p> <p>〈課題研究1=総合ゼミI〉 調査方法の基礎、「セルフプレゼンテーション」の活用により、コミュニケーション能力や課題解決能力を育てる。併せて将来に向け、調べ学習を行いながら、自己の在り方生き方についてじっくり考えさせる。</p>	<p>〈キャリアカウンセリング 2年次〉 生徒・保護者との面談、科目選択、履修指導。</p> <p>〈キャリアガイダンス〉 分野別講演会、上級学校による出張講義。</p> <p>〈「新しい学力」測定テストII 2年次秋〉 ①実力診断テスト(英・数・国) 自己の学力の進捗度を測り、学習方法を再確認しながら、実践に備える。 ②高校生活意識調査(LEADS) ③ジェネリックスキル測定テスト(PROG-II) リソルブ、ロビテン、それぞれが入学時(1年次・4月)と比較してどの程度伸びたか確かめ、今後の自己の能力の更なる伸長に努める。</p> <p>〈大学体験〉 校外研修をはじめとした上級学校体験により、自己の可能性に気づき、学習意欲の向上を目指す。</p>	<p>〈キャリアカウンセリング 3年次以降〉 進路希望調査、推薦希望調査、面接指導、小論文・志望理由書の書き方指導、保護者への説明会、受験後の指導、就職希望者への指導。</p> <p>〈キャリアガイダンス〉 分野別講演会 学校説明会 推薦・AO入試説明会 推薦・AO対策講演会</p> <p>進路決定 〈接続教育〉</p>																																		
	<p>〈アクティブラーニング型授業による各教科での学習〉 アクティブラーニング型授業の推進により、生徒自らが主体的に考え、積極的に学習に取り組む。とりわけ協働学習においては、生徒が互いに教え合い、学び合いながら、様々な気づきを得ることによって、ディープラーニングになるよう努める。コミュニケーション能力のほか、課題解決力・課題発見力など、社会に出てからも必要とされるジェネリックスキルを身に付け、併せて自己の可能性をいっそう拡げることができるよう支援する。</p> <p>〈習熟度別学習〉 生徒の力に応じたきめ細かい指導を行う。</p> <p>〈科目選択〉 自らの目標や進路希望に合わせた適切な科目を選択する。</p> <p>〈独習〉 自らの課題を設定し、課題解決に向けて自発的に取り組める力を育成する。</p>	<p>〈課題研究2=総合ゼミII〉 「セルフプレゼンテーション」での学びをさらに発展させ、各自の課題について調査研究を行う。JICA講演、国際理解講演。テーマ研究の発表。</p> <p>〈課題研究3=総合ゼミIII〉 各自の課題に基づき、論文を作成。研究成果の発表。</p>	<p>〈系の科目〉 生徒の具体的な希望に沿って深く学べる科目設定 ①国際コミュニケーション系 ②環境デザイン系 ③情報マネジメント系 ④教育・福祉チャレンジ系 ⑤表現クリエイティブ系</p>																																		
	<p>〈リーダーシップ教育〉 「模範を持たないリーダーシップ」：チームに所属する一人ひとりが発揮し、チームのために貢献。 ⇒部活動、学校行事、学級活動、日頃の授業等、様々な場面で発揮する。</p> <p>〈シチズンシップ教育〉 ④道徳教育 〈地域貢献活動〉 さまざまな作業を通して、近隣活動の小中学校、地域のひととのふれあいとコミュニケーションを図る。 〈ボランティア活動〉 主体的にボランティア活動への参加をする。 〈各種講演会〉 保健、防犯、交通安全、情報モラル等必要な情報を得て、良識を身に付け、社会性を養う。</p> <p>〈校外講座〉 大学や短期大学等との連携により校外講座を開設し、生徒自身が積極的に学習意欲を向上させるよう支援する。</p> <p>〈インターンシップ〉〈看護・介護体験〉 事業所などで社会人としての心得を学び、勤労観を養う。</p> <p>〈生徒会〉 生徒総会、予算決算、役員選挙、各種委員会活動をととして自己学習能力、人間関係形成能力などを育成する。</p> <p>〈文化祭〉 クラス、部活動等参加団体の発表活動、実行委員会、全体運営をととして人間関係形成能力、情報活用能力などを育成する。</p> <p>〈スポーツ大会〉 各種目参加、実行委員会、全体運営をととして人間関係形成能力、情報活用能力などを育成する。</p> <p>〈合唱コンクール〉 クラスの発表活動、実行委員会、全体運営をととして人間関係形成能力、情報活用能力などを育成する。</p> <p>〈フレッシュヤーズキャンプ〉 中学校から高校への円滑な移行を支援し、高校生活でどう過ごすか考えさせる。</p> <p>〈研修旅行〉 学習の機会として各自が課題を設定し、体験を行う。</p> <p>〈年次行事〉 自主的に企画・運営・参加させる。</p>	<p>〈年次行事〉 自主的に企画・運営・参加させる。</p> <p>〈年次行事〉 自主的に企画・運営・参加させる。</p>																																			
<p>教科での取組</p>	<p>特別活動等での取組</p>	<p>関係</p>																																			